

whistle

横浜から“未来”をつくる

ホイッスル：汽笛

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

横浜市立大学とあなたを結ぶ広報誌

vol.26 2014.10

プロフェッショナルであるために

自分の声で「伝える」ということ

フジテレビのアナウンサーとして数々のスポーツ番組を担当した卒業生の松井みどりさん。

その後、「自らの声を生業とする」という強い信念のもと、現在はフリーのナレーターとして活躍しています。マイクを通し、「声」だけで人に感動を伝えるという、プロフェッショナルな仕事を続けている松井さんにお話を伺いました。

YCU
横浜市立大学

whistle

ホイッスル：汽笛

vol.26

2014.10

2014年10月1日発行 横浜市立大学 経営企画課広報担当
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸2-2-2 Tel 045-787-2412 Fax 045-787-2048
e-mail: koho@yokohama-cu.ac.jp http://www.yokohama-cu.ac.jp/

公立大学法人横浜市立大学

「キヤンパス」の「鼓動」

「祭」の創造者たち

「浜大祭」と「Yokohama Medical Festival」、大学祭を創り出す実行委員長たちの思いとは？

今年もまた大学祭の季節がやってきました。横浜市立大学では、金沢八景キャンパスで10月31日(金)～11月2日(日)に「浜大祭」、福浦キャンパスで11月8日(土)・9日(日)に「Yokohama Medical Festival」を開催します。学生たちにとって、年に一度の大きなイベントである「大学祭」。その準備に追われる多くの学生スタッフたちがいます。それを統括する2人の実行委員長が「祭」を創る意気込みを語りました。



第64回 浜大祭
金沢八景キャンパス
10/31, 11/1, 2
Fri Sat Sun

信頼できる仲間とともに、近隣大学とも連携し多くの人が楽しめるイベントを創ります。

第64回 浜大祭実行委員長 いしづか しんや
国際総合科学部理学系物質科学コース 3年 石塚 慎哉 さん

私は1年生のときに友人に誘われてからずっと浜大祭実行委員として活動してきました。もともとそうした活動に熱心なタイプではなかったのですが、続けていくうちに多くの人と関わる機会が増え、それがとても楽しく感じられるようになり、気付いたら実行委員長に立候補していました。

今年の浜大祭のテーマは「ヨコイチ.com ~with you~」です。「com」はコミュニケーションを表し、「~with you~」は読んで字のごとく、「あなたと一緒に楽しむ」ということです。現在スタッフみんなでメーリングリストやLINEを活用して情報を共有し、協力しあって準備をしています。特に今年は、近隣の関東学院大学の大学祭実行委員会からもお声がけいただき、ユニークなコラボレーションも計画していて、浜大祭が両大学のかげ橋になればと思っています。

実行委員長としてのプレッシャーもありますが、信頼できる仲間日々助けられています。受験生向け企画からミス&ミスターコンテスト、芸能人企画、花火大会など、どなたでも楽しめるイベントにします。ぜひ遊びにきてください。



Yokohama Medical Festival 2014
福浦キャンパス
11/8, 9
Sat Sun

医学を身近に感じ、楽しんで参加してもらえる、そんなフェスティバルを創り上げます。

Yokohama Medical Festival 2014実行委員長 かとう しん
医学部医学科 3年 加藤 真 さん

もともと楽しいことが大好きなので、今回、私たちの学年から「Yokohama Medical Festival」の実行委員長を出すということを知り、思い切って立候補しました。

実行委員長になって初めての仕事は、男女1名ずつの副委員長を選ぶことでした。情熱と才能のある副委員長が決まり、現在まで私を含め、他のスタッフたちとともにミーティングを精力的に重ねています。

「Yokohama Medical Festival」は、医学部のある福浦キャンパスで開催しますが、医学系の堅苦しいイメージを払拭するようなイベントにしようと考えています。テーマは「Paradiseの横でFestival」です。有名なテーマパークである八景島シーパラダイスのすぐ近くにあつて、学生はもちろん、地域の皆様に気軽に遊びにきていただける楽しいお祭りであることを強調しています。目玉企画としては、昨年好評だった腹腔鏡手術の体験コーナーをはじめ、普段見られないような臓器展示などの医療系の催し物を充実させ、医学を身近に感じていただけるイベントを目指します。ご期待ください。

イベント情報

11/1(土)13時～「大人のラジオ体操」著者 中村 格子氏 による講演会「美しく健やかに年齢を重ねるコツ」を第6回ホームカミングデー(卒業生の集い)の第一部として開催します(浜大祭同時開催)。一般の方も参加できます(先着順・要事前申込)。イベント詳細、申込方法はホームページをご覧ください。▶ <http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/hcd2014.html>



YCU 公立大学法人
横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

【金沢八景キャンパス】

- 国際総合科学部(国際教養学系/国際都市学系/経営科学系/理学系)・医学部(医学科/看護学科)※1年次
- 大学院(都市社会文化研究科/国際マネジメント研究科/生命ナノシステム科学研究科)
- 【福浦キャンパス】医学部(医学科/看護学科)・大学院(医学研究科)
- 【鶴見キャンパス】国際総合科学部(理学系)・大学院(生命医科学研究科)
- 【舞岡キャンパス】木原生物学研究所・国際総合科学部(理学系)・大学院(生命ナノシステム科学研究科)
- 【附属病院(福浦キャンパス内)】
- 【附属市民総合医療センター】

広報誌「whistle」は、公立大学法人横浜市立大学の取り組みを広く知っていただくために発行しています。市大各キャンパスのほか、横浜市内区役所、公会堂、図書館、地区センターなどで配布しています。

whistle Web版はこちら
<http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/pr/whistle.html>

スマホからも、
携帯からもOK!



定期購読者募集中!



プロフェッショナルであるために

◆アナウンサーを志した理由とフジテレビ入社当時、心がけていたことは何でしたか？

私アナウンサーになりたいと思ったのは、話すことを通じて日本と海外をつなぐ仕事があったからです。通訳やシンクタンクでの研究職も考えたのですが、情報をダイレクトに伝えるという意味で、アナウンサーは適職だと思いました。

入社後、3ヶ月間の訓練があり、発声や話し方などを徹底的に鍛えられます。この訓練がプロ意識を自覚めさせてくれたと思います。やがてアナウンサーとしてデビューした私は、朝の情報番組のスポーツと天気のコナーを担当しました。そこでテレビ番組というのは、画面には映らない多くのスタッフに支えられていることを知り、画面に映るアナウンサーとして、大きな責任があることを肝に銘じて仕事をしていたのを覚えています。

◆スポーツの仕事が中心となった経緯、その面白さ、難しさなどについてお聞かせください。

情報番組のスポーツコーナーで現場に出かけて積極的に取材しているうちに、他の番組のディレクターの目に留まり、次第に野球やゴルフ中継など、スポーツ番組に起用されることが増えてきました。スポーツの試合中継は、その競技に精通していないとできません。また、常に状況が変化するので、予期せぬ展開というのも



充実した環境で学べる皆さんをとてもうらやましく思います。

◆松井さんにとってプロフェッショナルとは何でしょうか？

私は「常に自分を磨き、チャレンジし続けること」がプロの条件だと考えます。私には、「これで終わり」とか「100%満足」ということがありません。常に勉強してチャレンジしていこうと思っています。

◆最後に、これから就職活動をする学生にアドバイスやエールをお願いします。

◆「最後、これから就職活動をする学生にアドバイスやエールをお願いします。」

◆「最後、これから就職活動をする学生にアドバイスやエールをお願いします。」

◆「最後、これから就職活動をする学生にアドバイスやエールをお願いします。」

は、自分が画面に出ないということ。その分、ごまかしがきかず、声の表現力だけで伝えなければなりません。スタッフが時間と労力を費やして作り上げた映像に違和感なく自分の声と情報を乗せ、見ている方にその映像の作り手の思いをしっかりと伝える、というのが私の役目です。とてもやりがいのある仕事だと思っています。

◆YCU在学中に今の道に進むきっかけとなったことや、特に興味を持って学んだことはありますか？

YCUには国際関係を学びたくて入学しました。当時、私は通訳に興味があったので、4年次には大学とは別に東京の英語学校にも通っていました。今でいうダブルスクールですね。

在学中、交換留学生としてカナダに2ヶ月間留学しましたし、ニューヨークへの一人旅も経験しました。日本を飛び出してみただけで文化の多様性や価値観考え方の違いを尊重することを学びました。卒業してから仕事上で英語を使うことは少なかつたのですが、来日したプロコルファアのタイガー・ウッズ氏にインタビューした際には、在学中に精力的に英語を学んだことが役に立ったと思います。英語力を身につけると世界が広がり、仕事の幅も広がるものだと実感しています。

今のYCUは英語に非常に力を入れたカリキュラムになっていて素晴らしいですね。学外で英語の勉強をしなくても良いくらいに

多くあります。目の前で起っていることを瞬時に、視聴者にわかりやすく言葉にするのは、なかなか難しいことです。でも、勉強し場数を踏んでこれができるようになる。突然の大雨で競技がストップしてしまった場合などに何を話せば良いかということが、自然にわかるようになります。

◆フジテレビを退社し、フリーのナレーターに転向されたのは、どのような思いからだったのでしょうか？

入社13年目に人事異動があり、スポーツ局に移りディレクター職に就きました。これからの自分の人生について真剣に考えた時期でもあり、「自分は将来どんなふうに生きていきたいのだから」と自問し、その結果、やはり自分自身の声で話す仕事がいとおしいと思に至りました。それから「声を生業にしていこう」と決め、退社してフリーの道を選びました。しばらくの間、声優学校やナレーター養成所でスキルを磨き、フリーのナレーターとして活動することになりました。



まつい 松井 みどり Profile

新潟県出身、本学文理学部卒業後フジテレビに入社。朝の情報番組を経て、多くのスポーツ番組などを担当。同局の女性アナウンサーとして初めてプロ野球中継を行うなど、実績は豊富。その後フリーとなり、ナレーターとして朗読劇やナレーター養成の講師としても活躍中。



インタビュー 外池 玲衣さん 国際総合科学部 国際教養学系2年

「時間がある大学時代に、自分にとって大切なことは何かを考えてほしい」という言葉が印象に残りました。松井さんが「声」という大切なことを見つけたように、自分もさまざまなことを経験して、進むべき道を明確にしていきたいと思いました。



インタビュー 加藤 優衣さん 国際総合科学部 国際教養学系1年

松井さんがナレーションをする時は、単に原稿を読むのではなく、映像に合わせて気持ちを含めて読んでいくと知り、私の好きな演劇とも共通するので驚きました。プロとして活躍続ける松井さんのお話を聞き、自分の将来について真剣に考えるきっかけになりました。

● 学生たちのどんな質問にも身ぶり手ぶりを交え、心地よい声と笑顔で答えてくれた松井さん。プロフェッショナルとして活躍する先輩の言葉はとて貴重なアドバイスとなったようです。

